

善光島の

キツネ

平成十一年十一月五日号

善光島（今の荒田島二丁目付近）のお宮さん（八幡神社）には、昔、キツネが出たという言い伝えがありました。

今回は、この善光島のキツネにまつわる話を紹介します。

昔の津田村は、家は飛び飛びで道は狭く、それに木が生い茂っていました。吉原一丁目を寺町てらまちと言ったところ、津田村の百姓がお祭りでおすしをつくったので、重箱に入れて寺町の親戚せきへ持っていきこうとしました。そして、善光島の

お宮さんのところへ来ると、なぜか急に重箱が重くなったり、軽くなったりしました。

善光島のお宮さんは、木が生い茂った森で、昔からキツネが出るといううわさでした。「はてな。キツネのしわざかな」と思いましたが、気味が悪いので急いで寺町の家に行きました。

寺町の家に着いて重箱を開けると、油揚げのおすしが一つもありません。キツネに取られてしまったのでした。

夜になってお宮さんの前を通ると、ごちそうになったお礼のつもりか、キツネたちがちょううちに火をつけて、お宮さんの周りを昼間



のように明るくしていたそうです。

稲垣 糾たじさん（荒田島町）

近藤武雄さん（伝法）

大箸 進さん（伝法）



▶ 善光島の八幡神社

大正の初めころにはこのお宮さんの付近にキツネが出たという話を、親から聞いたことがあります。私たちが子どものころはこのあたりは一面田んぼで、お宮さん以外にあまり人家はありませんでした。昼間はよくお宮さんの木に登ったりして遊びましたが、夜は怖くて近づけませんでした。

このお宮さんでは、明治のころから一月・六月・十月の年に三回、お祭りを行っています。戦前までは、たくさん子どもたちが集まってきたり、おこもりとって一晩じゅう火をたいてみんなで話をしたりとにぎやかでしたね。近ごろは少し寂しくなりましたが、今でも荒田島二丁目の三組合が、一年交代で当番になってお祭りを開催し、地域のきずなを深めています。